Vita-min

the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

vol.3

高知で活躍する女性研究者ロールモデル集

高知大学 男女共同参画推進室
男女共同参画支援ステーション

平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

高知大学　理事
（ワークライフバランス担当）

宮井　千恵

現在、我が国は、諸外国に例を見ない超少子高齢社会へ突入し、家族の形、地域・社会そして職場における働き方等にもますます大きな変化が生じております。このような社会の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現するために、男女共同参画の視点が重要であることは言うまでもありません。特に、学知の探究の拠点である大学には教育、職場環境における男女共同参画を阻害している社会が抱える多面的な課題の解決に向けて積極的に取り組むことが要請されています。また、男女共同参画社会の実現にあたっては、行政機関、教育・研究機関、民間企業をはじめ地域の皆さんとの協力が欠かせません。

高知大学は、「男女共同参画の基本理念・基本方針（平成24年2月制定）」を設けて、男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会に広げるという基本的な考えのもと、男女双方にとって、働きやすく学びやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めております。

このたび、四国国立5大学及び公設研究機関等が申請した平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され，『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』を立ち上げました。このプロジェクトは、女性研究者や若手研究者が活躍しやすいダイバーシティ研究環境の実現と同時に、四国地域の問題・課題につながる研究から、世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、四国地域の産学官が連携して取り組むものです。

この取組の一環として、高知大学は高知県で活躍する多様な研究者を紹介するロールモデル集を作成しました。今回は高知県の大学や公設研究機関において医療・自然科学分野で活躍する女性研究者に焦点を当てています。本ロールモデル集をきっかけに、地域の研究者の連携の機会を広げるとともに、次世代を担う若者が地域の多様なロールモデルを知る機会となりましたら、これ以上の喜びはありません。

＼四国発信！／

ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト

四国地域の問題・課題解決につながる研究から、世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、四国地域の産官学9機関が連携して、女性研究者や若手研究者の挑戦の場を広げるとともに、女性研究者の裾野拡大や若手研究者の育成、研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮し、女性研究者のマンパワーを質的量的に増加させ、男性を巻き込んだ総合的なキャリアマネジメントに向けて、「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」を展開する。

目標・行動計画

■3つの目標

目　標　1：研究力向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、女性研究者の活躍の場を広げる。
目　標　2：女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する。
目　標　3：研究と生活の調和を図る。

■行動計画

プロジェクト1：女性研究者が牽引する地域イノベーションリサーチシーズの形成
プロジェクト2：ハイ・ポテンシャル人材育成
プロジェクト3：研究と生活の調和

－目　次－

満田 直美（高知大学医学部環境医学教室 所属）　3
杉田 郁代（大学教育創造センター）　5
笹岡 晴香（高知大学医学部看護学科 基礎看護学講座）　7
塩﨑 直子（JICAシニア海外協力隊 タンザニア 助産師）　9
磯部 香（教育研究部人文社会科学系教育部門）　11
安藤 暁子（四国森林管理局 森林整備部 技術普及課 課長補佐）　13
鈴木 琴栄（早明浦病院、レズリー大学大学院博士課程）　15

Vita-min
the Stylish for Vitalizing Your Challenging Mind

満田 直美

高知大学医学部環境医学教室
みつだ なおみ

それぞれのペースとタイミングがある。

略　歴

広島大学医学部医学科卒業。高知大学大学院総合人間自然科学研究科博士課程修了。大学卒業後、広島県内、高知県内で小児科医として勤務。現在は高知大学医学部環境医学教室特任助教。

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

大学卒業後はずっと臨床中心で研究に携わる機会が持てずにいましたが、5年前に現在所属している教室の教授に声をかけられ出生コホート調査に携わるようになりました。

ちょうどその頃は不妊治療中で、勤務時間が長く不規則で当直も多い生活の中では治療を継続するのが困難だったため、非常勤にかわり外来診療のみにさせてもらっていた時期でした。研究を始めるのには良いタイミングだったと思います。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

臨床の中で生じた疑問をもとに仮説をたて、データを解析してその答えを知るのが今はとても楽しいです。データを解析したり関連する文献を読んでいるとまた次の疑問が湧き、それが次の研究のテーマとなっていきます。ただ、私は研究者としてのキャリアがまだ浅く、研究の本当の魅力を知るのはまだまだ先かもしれません。

Q3.現在の研究および生活

エコチル調査という大規模な出生コホート調査に携わりつつ、小児科医としての外来診療も行っているので、仕事では研究と臨床にちょうど半々くらいに時間を割いています。プライベートでは0歳と2歳の2人の子育て中で、仕事はほぼ定時に切り上げて帰宅しています。子供が寝た後、体力が残っていればデータをチェックしたり、論文を書いたりしています。常に時間に追われている感じですが、夫と近くに住む義両親にかなり助けられています。多くの学会で託児がついているので、県外の学会出張に子どもを連れていくこともあります。

Q4.今取り組んでいる研究について 小中学生にも分かるように一言でいうと

エコチル調査では、全国約10万組の親子を対象に、お母さんが妊娠中から子供が13歳になるまで、定期的に生活習慣に関連する質問に答えてもらったり、採血・身体計測・発達検査などを受けてもらうことによって、生活環境が子供たちの健康や発達にどのような影響を与えるのかを調べています。集まったデータを解析し、いろいろな疾患と生活環境の関連性について報告しています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

調査に協力して下さっている参加者さんはもちろんのこと、調査に携わる多職種のスタッフがいなければ研究は成り立ちません。ただ研究に没頭するのではなく、参加者さんやスタッフ、研究者同士など、関わりのある多くの人とのコミュニケーションは大切にしたいと思っています。研究は楽しく、もっと時間を割きたいという思いはありますが、子供がまだ小さく、今は子育てを楽しみながら家族ですごす時間もとても大切です。

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

30代後半で仕事をペースダウンした時は葛藤もありましたが、1回ギアチェンジしたからこそ、自分でも思ってもみなかったタイミングで研究に携わることになりました。研究の内容にもよると思いますが、私の場合は時間の融通がつきやすかったので、ここ数年の様々なライフイベントと研究の両立が何とかできています。とても「ロールモデル」と言えるような歩みではありませんが、人それぞれのペースやタイミングがあるのだと思います。

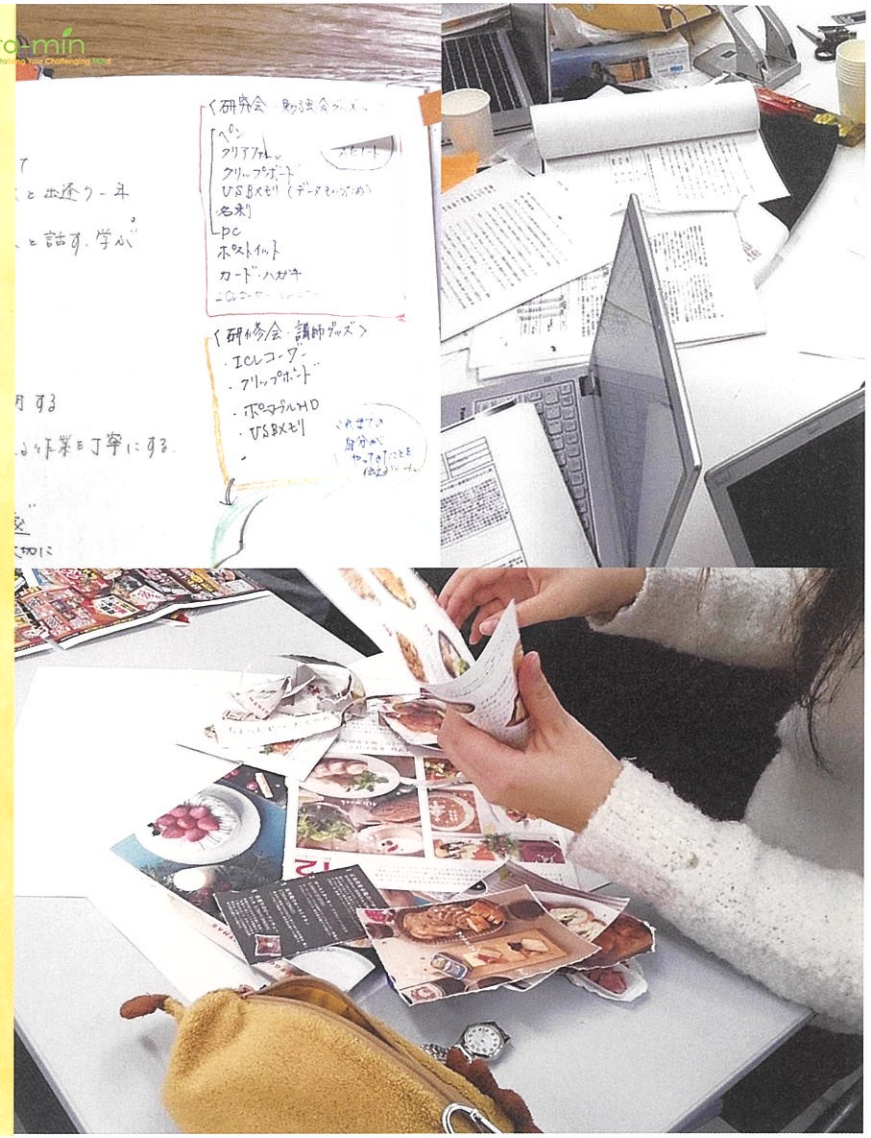
満田 直美 のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床、朝食準備、朝食	家事	子どもを院内託児所に預け出勤、論文抄読会に参加	データ解析		スタッフミーティング	休憩	文献検索	診療				子どものお迎え、帰宅、夕食準備	夕食、入浴	子どもとあそぶ、リラックス	子ども寝かしつけ(自分も寝てしまうことしばしば)	家事、論文書き		就寝				

Vita-min
the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

杉田 郁代

大学教育創造センター
すぎた いくよ



研究は、違和感を持つ感覚と、「なぜ？」「なぜ？」の繰り返しが大事です！

略　歴

大学卒業後、中学校勤務を経て、大学院に進学、修了後、高等学校勤務、大学へ異動。環太平洋大学次世代教育学部 准教授、比治山大学、健康栄養学部 准教授を経て、2016年高知大学大学教育創造センター特任准教授を経て、2019年より、現職。広島大学大学院教育学研究科博士後期課程 満期退学。

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

教育・研究に携わるきっかけは、大学卒業後に勤務した中学校で、出会った「不登校の生徒」です。不登校の生徒が、教室へは行けないが、適応指導教室（現：教育支援センター）へは通えることに違和感を覚えて大学院（修士課程）に進学しました。どんな学級だったら、できるのだろうかと悩みました。それが、教育・研究に携わる、最初のきっかけです。そこから、「不登校」「教師」「居場所」を領域とする研究を続けています。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

研究の魅力は、何となく、わかっていることを、データ化して可視化するところです。

Q3.現在の研究および生活

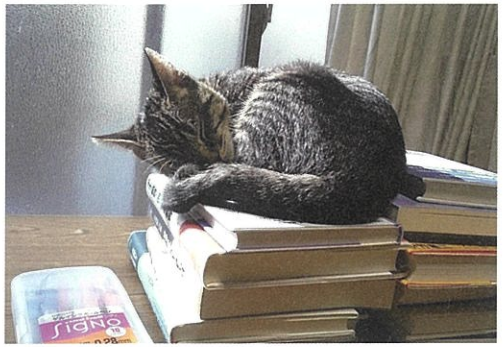
現在の研究は、大学教育の研究をしています。大学教育は、ここ数年、政策的な影響を受けて、大きく転換しています。10年前、20年前には考えられないような変化をしています。その中で、私は、「大学教育における教育相談」について研究しています。どこの大学でも行われている大学教員と学生の関係にアプローチしています。この領域は、未開拓の領域で、少しずつ幅を広げたりして、研究を深めています。

Q4.今取り組んでいる研究について小中学生にも分かるように一言でいうと

「授業の中で、生徒（学生）の居場所を作る」授業研究をしています。生徒指導のキーワードの一つです。学校の中で、一番時間多く過ごすのは、授業です。授業の中に居場所があれば、学校に行こうかなという気持ちにつながるからです。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

日常で大切にしている時間は、二つあります。一つは、「他領域の本を読むこと」ことを大切にしています。友人が読んでいる本を教えてもらって領域を広げています。二つ目は、研究に関して、今考えていることをアウトプットすることを大切にしています。「研究ノート」とは、異なり、研究の種になるような小さな気になるワードを思いつくままに、書きためています。



研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

自分の研究領域外の研究者に出会い、話をしてほしいです。自己の所属する学会と近接領域の学会に参加する「学会を越境する」ことによって、自己の研究を深く理解することができます。同じ事象でも、学問によって捉え方が異なります。他の領域での捉え方から自分が取り組んでいる研究を見て学んでほしいです。また、自分の研究について、誰かに語ることで、自分の見えていない盲点に沢山気づくことができますよ。

自己の所属する学会や研修会では、初めて出会う研究者とおしゃべりすること、お昼ご飯を一人で食べないで、誰かを誘ってランチすると、学会が、2倍以上楽しくなりますよ。

杉田 郁代 のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床	出勤まで、本を読んでいます	出勤	授業準備、センター業務		お弁当	センター業務						帰宅、夕食	夕食後から就寝まで本を読んでいます。			就寝					

Vita-min
The Station for Vitality Your Challenging Mind

笹岡 晴香

高知大学医学部看護学科 基礎看護学講座
ささおか はるか

出会いの中に研究がある

略　歴

高知医科大学医学部看護学科卒業。看護師として病院勤務後、高知大学大学院修士課程（看護）、博士課程（医学）修了。現在は、高知大学医学部看護学科准教授。

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

人の役に立つ仕事がしたいと看護学科に入学しました。看護師として仕事をしていく中で、「患者さんのためになる看護っていったい何だろう?」と、もう一度原点に立って勉強したいと思い、大学院に進学しました。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

自分の疑問にじっくりと向き合えることです。また、自分と同じ疑問を持った人と出会えることで、意外な視点や様々な考え方を知ることができます。研究を通して、様々な職種や立場の人と関わることができて、勉強になります。最終的に研究の成果が、患者さんのためになれば、これ以上ない喜びです。

Q3.現在の研究および生活

便秘の緩和ケアについて研究をしています。食事療法などを取り入れることにって便秘緩和の効果を調べたり、便秘が日常生活にどのような影響を及ぼしているかを調査したりしています。現在の生活は、保育園に通っている子供2人の育児と仕事の両立に奮闘しています。

Q4.今取り組んでいる研究について 小中学生にも分かるように一言でいうと

便秘は人それぞれに症状の重症度や、日常生活への影響が違います。それぞれの患者さんに応じた便秘緩和ケアを模索しています。現在は、便秘の症状に苦しんでいる患者さんにとって便秘が日常生活にどのような影響を与えているのか、また、医療者が便秘のケアに対しての意思決定をどのようなプロセスで行っているのかを明らかにしたいと考えています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

家族が健康であることによって、仕事にも打ち込めるので、家族との時間を大切にしています。子供と一緒に遊ぶ時間を大切にしています。

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

自分の日頃の疑問が、研究へとつながっていきます。研究がうまく進まなかったときもたくさんありました。悩んでいた時に、恩師や同じ疑問を持った方との出会いによって、新たな知見を得ることができ、現在に至っています。人との出会いによって研究を進められたと思います。

笹岡 晴香 のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床	朝食・家事	保育園へ送った後、出勤	授業や会議など			昼食	授業や会議、データの分析など				保育園に迎えに行った後、帰宅	夕食準備、家事	夕食・入浴		子供の寝かしつけ	就寝						

Vita-main

塩崎 直子

JICAシニア海外協力隊 タンザニア 助産師

しおさき なおこ

いつでもどこでも探求心を忘れなければ、研究への道は拓けます

略 歴

高知大学文理学部中退、高知県立看護学園第一看護師学科・助産師学科卒業、20年臨床で働いた後にシニア海外ボランティア（現シニア海外協力隊）としてエクアドル2年間派遣、帰国後高知大学総合人間自然科学研究科修士課程農学専攻黒潮圏準専攻国際保健医療副専攻修了、福山平成大学看護学部、看護学科講師、近森病院付属看護学校専任教員、2019年2次隊シニア海外協力隊として2年間タンザニアに派遣予定

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

助産師となって公立病院で働きながら看護研究を学会で発表しました。そこで数字やデータを基に考察することに面白さを感じました。その後JICAシニア海外ボランティアとしてエクアドルで2年活動しました。帰国し臨床に戻ったものの、研究に関わりたい、看護学以外の他領域から看護を考えてみたいと思い、50歳半ばで高知大学大学院に入りました。総合人間自然科学研究科修士課程農学専攻黒潮圏準専攻国際保健医療副専攻という専攻で妊婦の食生活について研究し、看護教育にかかわるようになってからも研究を続けています。振り返るとどこでも何か研究をしています。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

私の場合、自分の興味を持ったことをテーマとしています。

研究は、日常のささいな疑問からはじまります。教科書に書いてあること、一般的に言われていること、それらに対して、「本当だろうか?」「あれ?ちょっと違うのでは?」と感じたことを心に留めておいて、調べることが楽しいです。当たり前と思うことでも、数字やデータで考えると面白い結果が出ることがあります。研究結果を実際にどう活かすかを考えるとモチベーションが維持できます。

Q3.現在の研究および生活

エクアドルで「妊娠中に青いマンゴーに塩をつけて食べるのが大好きになりやめられなかった、そのせいで浮腫みが出て大変だった」と楽しそうに話すのを聞きました。日本では妊娠中すっぱいものが食べたくなると言うが本当だろうか?と疑問がわきました。妊娠中に特別な食品に「はまる」現象は日本だけではないようです。その経験をもとに、大学院では「妊婦の『はまり食』体験の実態」について調べました。その後、看護師、助産師、看護教員の立場で、看護学生の指導について研究してきました。今後は、タンザニアでの経験を活かして、日本とタンザニアの妊婦、看護教育や看護学生について比較研究したいです。またタンザニアの妊婦の「はまり食」について調べてみたいです。

Q4.今取り組んでいる研究について 小中学生にも分かるように一言でいうと

主な研究テーマは妊娠中の食生活と看護教育です。助産師で看護教員ですから妊娠中の方や母親、看護学生を対象とした研究が多いです。

妊娠中の方がより楽しくなるような妊娠中の食生活、看護学生の効果的学習法などを明らかにしていきたいと思います。高知大学の修士課程には働きながら学べる、他領域を組み合わせて学べる、副専攻を自分で組めるなどとてもいいシステムがあります。今は研究に縁がなくてもいつか機が熟すことがあると思います。その機会を掴んで欲しいと願っています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

以前は夜遅くまで起きていることもたびたびありましたが、今は睡眠時間を確保して、翌日元気になってから考えるようにしています。睡眠時間と共に大切なのは一人でとりとめなく考える時間です。考えても行き着く所は平凡な結論のこともありますが、考える過程が好きです。また行き詰まったらいったん保留にして、蓋をかぶせておき、少し期間を置いてから、再び蓋を開けて考えます。

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

どこにいてもどんな職業にいても、研究の機会はあります。好きなことや関心のあること、を大切にしてください。そして、教科書に書いてあること、一般的に言われていること、に「本当だろうか?」「なんだかおかしくないかな?」と思ったら、その気持ちを忘れずに、調べてみるといいと思います。現状をもっと良くしたいと考えるのもいい手法だと思います。自分の興味や関心から、関連する他の分野へと学習を進める、統計について学ぶなど、いつかきっと研究に役立ちます。

塩崎 直子 のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床	勤務する看護学校へ	メールチェック 授業準備	授業	授業 記録物チェック	技術演習準備	昼休み	技術演習		次回技術演習準備		学生対応 国家試験対策		帰宅	夕食	猫と遊ぶ 読書	入浴 読書	読書 就寝					

Vita-min
The Station for Vitalizing Your Challenging Mind

磯部 香

教育研究部人文社会科学系教育部門
いそべ かおり

共同研究者と大連の幼稚園見学

とりあえず、やってみよう！

略　歴

京都教育大学卒業。奈良女子大学人間文化研究科博士後期課程修了後、台灣大學文學院語文中心中國語科へ語学留学。大連外国語大学日本語学院専任外籍教師、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター特任助教を経て、2019年4月より高知大学教育学部家庭科教育コース講師。

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

小学校のころから日本史や古典が好きで、歴史学者になりたいとずっと思っていました。その当時は研究者がどのような職業なのかもよく分かっていませんでしたが、自分には研究者の道しかないと思い込んでいました。その夢を実現するため、向こう見ずに大学院まで進学しました。大学院では、家族関係学・ジェンダー領域の先輩方に囲まれながら、日本の家族史・ジェンダー史・女子教育史の研究をしていました。先輩方と一緒に難しい本を読んだり、討論したりして、大変充実した日々を送ることができました。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

研究の魅力は、一言でいえば「いろんな考えを知れること」でしょうか。私は、大学院まで日本を出たことがなく、これからも外国とは無縁の人生を送るだろうと思っていました。ですが、大学院生の時に台湾から来た留学生のチューターをしたことがきっかけとなり、中国語も全く話せないのにもかかわらず思い切って台湾へ留学しました。台湾留学によって様々な背景を持つ人々と出会い、交流する機会を得ました。それ以降、私はアジアの人々と積極的に交流しながら研究を行っています。アジアの研究者と学術交流を行い、そしてアジアの人々のお話に耳を傾けることで、多角的な視点を持てるようになりました。

Q3.現在の研究および生活

今年4月から高知大学で働いていますが、忙しいながらも、毎日とても楽しく高知生活を送っています。スーパーに行っても、コインランドリーに行っても、路面電車に乗っても、高知の人は親しく話しかけてくださいます。なので時々、台湾の生活に戻ったような感覚になります。

研究に関しては、ここ数年は中国や台湾の子育て・家族を中心に研究を行っていますが、これからは高知の人たちがどのような生活をし、どのようなことを日々考えているのかを知りたいと思っています。特に高知の保育や少子化現象を社会学的視点で明らかにできればと思っています。それに加え、今年から外国につながりのある子どもたちとの多文化共生についての研究も始めています。

Q4.今取り組んでいる研究について小中学生にも分かるように一言でいうと

私が今行っている研究は、2つあります。1つは、中国の幼児教育についてです。現在、中国では、幼児教育教室が沢山つくられ始めています。中国の幼児教育の教室に調査に行って教室の先生やそこに通っている家族にお話しを聞いています。2つ目は、台湾の少子化研究です。現在、日本も台湾も子どもの数がとても減っています。台湾では少子化を和らげるために様々な政策を行っています。その政策について、市役所や子育てをしているお母さんにお話しを聞いています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

私が大切にしている時間は、「人と話したり、笑ったりする時間」です。自分がこんなに人と交流するのが好きだったとは、外国で生活するまで思いもよりませんでした。日本で生活をしていた時、自分は一人でなんでもできると思い込んでいました。ですが、外国で生活すると簡単なことをするにも誰かのサポートなしにはうまくいかないことを痛感しました。ですので、誰かが自分の傍にいてくれることに感謝しながら、毎日の生活の中で、周囲の人と何気ない日常の話をしながら笑える時間を大切にしたいと思っています。

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

うまくいかないかもしれないけれども、とりあえずやってみる、経験してみることが大事ではないかなと思います。私の体験上、挑戦し続けていれば、中華圏でよく言われる「縁」がもたらされると思います。その縁は、多くの試練と共にチャンスももたらしてくれます。
また、もし機会があれば是非、日本から飛び出してみてください。日本で起きている事象を相対化する視点や、海外で適応しながら生き抜く力を養える機会となります。

磯部 香 台湾調査のとある一日

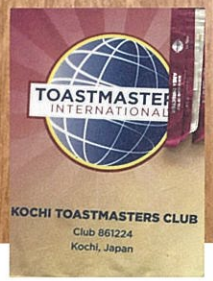
5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床	ホテル近くの市場で朝ごはん		カフェで子育て中の母親にインタビュー調査（2名）		昼食をとりながら共同研究者らと打ち合わせ		台北市の託児所・幼児園へ見学	幼児園の保育者へインタビュー調査			共同研究者らと調査の整理・今後の調査打ち合わせ	台湾の研究者と研究交流			翌日の調査準備	就寝					

Vita-min

安藤 暁子

四国森林管理局 森林整備部 技術普及課 課長補佐

あんどう あきこ



Take a chance!
ダメでもともと、とにかくやってみよう。

略　歴

高知県立高知女子大学卒業。林野庁へ入庁。

Q1.取り組みを始めたきっかけはなんですか?

文学部を卒業し行政職で林野庁に採用された私には、森林・林業に関する専門知識は皆無でしたが、研修や仕事を通して十分な知識を得ることができ、幸い機械いじりが好きだったこともあって、GIS(地理情報システム)やドローン、レーザースキャナーなど森林管理に取り入れられた新しいツールを使うようになりました。森林を林内から人力で調査するのではなく、「空から」や「レーザー」等の機材を使って短時間で客観的に把握するという手法に業務の効率化や負担軽減の可能性を期待し、実証に取り組んでいます。

Q2.現在の業務の魅力はどのようなところですか?

男性社会、体力勝負と見られがちな森林管理・林業ですが、近年ではドローンやレーザースキャナー、森林の3Dモデル化ソフト、GIS(地理情報システム)等最新の機器を活用した「スマート林業」が進んでいます。体力的に自信がない女性、男性でも、最新の機器を使った情報処理や自由な発想力を活かして森林・林業の発展に貢献できる魅力的な仕事です。この魅力を自分から発信していけるということは更に魅力的なことです。

Q3.現在の業務および生活

ICT、IOTを活用した林業の効率化や労力の削減を目指しています。前述の機材を使った森林調査、森林管理の実践や関係団体等への講習、他にも、LPAW(低消費電力、低コスト、広域サービス)通信を活用した業務の効率化に取り組んでいます。今、森林ではシカが増え過ぎ、下層植生や植栽木を食べ尽くす食害が大きな問題となっています。国有林の広範囲では携帯電波が通じませんが、その環境で活用できるLPWAを使って、狩猟者の罠巡視の負担を軽減し、更に被害対策範囲を広げるべく、罠の作動に連動して捕獲の通知が届くシステムの開発・運用に取り組んでいます。労働力の減少が予想される今後の森林管理・林業ですが、新しい機器を取入れ人の力をサポートする仕組みを作り上げたいと願って日々取り組んでいます。

Q4.今取り組んでいる業務について小中学生にも分かるように一言でいうと

私たちの住んでいる日本は世界に誇る豊かな森林があり、おいしい水を供給したり、CO2を吸収したり、木材を生産したりと生活に欠かせない存在です。その森林にいつも元気でたくさんの恵みを与え続けてもらうには森林が良い状態であるようお手入れをしなければなりません。森林は広いので、ドローンを使って空から調べたり、色々な機械を使って調査時間を短縮したり、また森林を荒らす害獣を減らすための道具や仕組みを考えています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

家族や友人、異業種の方々との会話の時間です。家族や友人との会話は仕事モードをOFFにし、気分をリフレッシュしてくれますし、異業種の方との会話にはいろいろなヒントがあり、思いがけず自分の取組みに応用できる発見もあります。

加えて自分の趣味の時間。ドライブや英文専攻の経験を活かしてボランティアガイドや通訳(SGG所属)を行っています。パブリックスピーキングクラブであるToastmasters※　では2019-2020の四国地区のArea Directorとしてスキルアップを目指しています。

※https://www.toastmasters.org/
http://district76.org/ja/

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

自分で自分の可能性を縛らないでください。

今できることは今しかできないことかもしれません。次の機会は来ないかもしれないし、来たとしても今より良い環境ではないかもしれません。「やってみたい」と思うことが目の前に来た「今」がチャンスです。私も呆れられるほど、色々なことに挑戦していますし、これからも挑戦します。「できる時には何でもやってみたらいいんじゃない?失敗してもそこから得たものは確かに次につながるから」これが私のモットーです。

安藤 暁子 のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床	朝食、メールチェック・応答	出勤	森林調査等			昼休み	森林調査等				調査概要取りまとめ、分析			帰宅	夕食・家事	メール応答、Toastmasters・SGG活動の準備等、ネットサーフィン		就寝				

Vita-min
the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

鈴木琴栄

早明浦病院、レズリー大学大学院博士課程

すずき　ことえ

広がる対話の可能性！
～色んな価値観に触れて～

略　歴

全米・日本音楽療法学会認定音楽療法士、ピアニスト/シンガー。上智大学卒業後、ニューヨーク大学音楽療法学科にて修士号取得。特別支援学校やコロンビア大学児童・思春期精神科勤務、モロイ大学での教鞭を経て、'17年より高知県に家族でUターン。ボストンにあるレズリー大学博士課程に在籍しながら、早明浦病院の小児リハビリテーション科で音楽療法を行う。自身のジャズバンドで自作曲を含むアルバム"KOTOE"をリリース、県内外で講演・演奏活動を行う。

Q1.研究者に進んだきっかけはなんですか?

まだ音楽療法が知られていない頃、大学の図書館で偶然出会った音楽療法の本をきっかけに、その著者が教えていたNYの大学院に留学を決意しました。音楽療法とは、音楽の生理的、心理的、社会的にもたらす効果を用い、対象者のニーズに合わせて心身の健康を図ったり、病や障害の機能回復・維持に役立てたりする療法の一種です。欧米では医療や、福祉、教育などの分野で専門性をもって取り入れられています。音楽療法士とは、音楽の技術とセラピスト(臨床)の技術を併せ持つ職人のような職業です。私一人が生涯かけても携われる患者さんの数は限られていますが、音楽療法士を育成することはその裾野を広げてくれます。そして、研究は、社会的認知を高め、音楽療法の効果や教育の質を高めていく発展に欠かせません。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか?

音楽療法研究は、臨床ありきの研究で、まだまだ新しい分野ですが、それだけやりがいがあります。芸術と科学の融合でもある音楽＋療法の分野においては、人間関係をも扱うので既存の研究方法では知りえない時は、研究方法自体もテーマによって多様なものが求められていきます。未だ拾われていない声を拾って共通の知識にしていくことも、研究の醍醐味であり、魅力の一つです。けれど、8年も博士課程に在籍していると、あくなき自己の探求や研究テーマへ情熱がないとなかなか研究が持続していかないかなとも思います。

Q3.現在の研究および生活

音楽療法の博士課程への入学条件の一つに、最低5年の臨床経験を課すプログラムは多いです。8年前から夫の赴任で再渡米したのを期に、第二子を出産直後、ボストンにあるレズリー大学の博士課程を受験しました。最初の3年間は、夏休みの一か月間ケンブリッジに滞在し、朝から晩まで量的・質的研究についての授業や、その後は、オンラインの遠隔コースで単位取得や課題提出をします。ブラックボードというオンラインの掲示板を使ったディスカッションや、スライドを作って自分のプレゼンをして、クラスメートのフィードバックをもらったりします。仕事をもちながら、博士課程に在籍できるので、アメリカ全土、トルコやアフリカ、韓国出身のクラスメートと一緒に学べたのもすごく刺激になりました。今は、高知県の土佐町にいながら、アドバイザーともスカイプで連絡をとり、口頭諮問にむけて最後の集大成である研究論文のドラフトを書き上げています。

Q4.今取り組んでいる研究について小中学生にも分かるように一言でいうと

音楽療法の中でも特に即興音楽を扱う音楽療法士のアイデンティティーについて調べています。音楽療法士が全員そうではないのですが、演奏家であり、音楽療法士としても活動する音楽療法士を対象に、患者さんと臨床で行なう即興音楽体験と、パフォーマンスで他のミュージシャン達と奏でる即興音楽(非臨床的)体験が、彼らの音楽家であり療法士であるアイデンティティー形成や音楽性にどういう影響を与えあっているのかということを質的リサーチの手法を組み合わせて探索しています。この研究テーマは、演奏活動も行う自分自身のアイデンティティー形成や自己探求から生まれています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

音楽療法の仕事も論文執筆も、心と身体が健康な状態でないと、十分に取り組めません。日頃から、セルフケアをすること、音楽聴いたり創作することはもちろんですが、散歩やストレッチなどの運動をしたり、好きなコーヒーやお茶を入れたりして、一日のメリハリをつけて気分転換をしながら、集中力を高めています。また、家族がいるので、子どもとの時間、家族の会話や、団らんの時間も大事にしています。

研究に携わる仕事を目指す若い方へのメッセージ

博士課程の最初の授業で教授に言われた言葉があります。「研究とは、一人で何かを全て証明しようとするのではなく、巨人達の肩にのって、これまでの対話に参加し、その対話の可能性を広げていくことだ」と。理系文系研究の違いはあるかもしれませんが、自分の探求心やパッションを忘れずに取り組めばきっと対話への道筋を残せると思います。そのためには、同僚や先生、仲間を含め様々な価値感を持っている人とできるだけ色んな対話をしてサポートを得ることが鍵だと思います。

鈴木琴栄のとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床・身支度	朝ご飯	ボーカル練習	病院でミーティング、準備。個人音楽療法セッションX2	グループセッション、片付け	グループセッション、ミーティング、片付け	昼食	家事	文献リーディング・博士研究論文執筆	執筆・休憩・散歩	執筆	買い物・夕飯の支度	夕飯	家族団らん	ピアノの練習	家事	風呂・次の日の準備・ストレッチ	就寝					

高知大学男女共同参画推進室では、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブを活用して、研究と生活の両立、ワークライフバランスのとれた研究環境の実現、男女共同参画の推進のため、次のような取り組みを行っています。

❶ダイバーシティ研究・職場環境の整備

ⓐ研究支援員制度の実施

研究支援員が研究補助を担うことで、ライフイベント中の研究者が計画的に研究の遂行と生活時間の確保が出来るように支援する制度です。

ⓑ力仕事サポーター制度

女性研究者が妊娠・出産・病気からの復帰（病気からの復帰は男性含む）で力仕事が必要な作業（実験機器の運搬等）を事前登録の力仕事サポーターが支援する制度です。

ⓒライフイベントからの復職支援制度

過去２年以内に、ライフイベント（妊娠、出産、育児、介護）のため、休業又は産前・産後休暇、もしくはその両方により、３か月以上やむを得ず研究活動を中断した方の研究を支援します。支援金額：10万円以内（令和元年度）

ⓓ介護パンフレット『介護に備えちゅうかえ』

高知大学では介護準備のパンフレットを作成し、教職員に配付しています。

ⓔライフイベント休憩室（SANKAくんのおうち）

高知大学朝倉キャンパスの正門から左手にある樗クラブ１階に、ライフイベント中の教職員や学生が利用できる休憩室「SANKAKUNのおうち」がOPENしました。授乳、搾乳、おむつ交換、お子さんとの休憩、子育て交流会などに利用できます。利用時間は原則平日９時から16時30分までです。人事課（本部管理棟３階）で鍵を借りて、ご利用いただけます。

ⓕヒューマン・マネジメント講座（マネジメント・セミナー）の開催

ⓖ管理職セミナー

ⓗ男女共同参画意識セミナーの開催

ⓘ女性活躍推進セミナー

ⓙ高知県ワークライフバランス推進企業認証（次世代育成部門）

❷女性研究者の研究力向上

ⓐダイバーシティ推進共同研究支援制度

ⓑ研究交流発表会（四国地域の大学、公設研究施設、企業等の研究交流会）

ⓒ国際学術論文投稿支援制度

ⓓ高知大学女性研究者奨励賞の募集

ⓔ英語論文書き方セミナーの開催

❸裾野拡大

ⓐロールモデル講演会

ⓑロールモデル集の発行

ⓒ若者の働き方に関するセミナー

ⓓ男女共同参画意識啓発セミナー

❹地域との連携・協働

ⓐキャリア形成セミナー（こうち男女共同参画センター「ソーレ」共催）

ⓑデートDVセミナー（こうち男女共同参画センター「ソーレ」共催）

ⓒ認知症サポーター養成講座の開催

（高知市役所、認知症の人と家族の会高知支部の協力）

これからも、地域と連携して男女共同参画の推進に取り組んでまいります。

Vita-min

the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

高知大学女性研究者ロールモデル集

国立大学法人 高知大学 男女共同参画推進室

男女共同参画支援ステーション Vita-min

the Station for Vitalizing your challenging Mind

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号　URL：http://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/
TEL：088-888-8022 FAX：088-888-8023　E-Mail：sankaku@kochi-u.ac.jp